

常設委員会報告



総務委員会報告

委員長 加藤 信治

令和7年度総務委員会は、下記の9名にて構成されています。

委員長：加藤 信治((株)松原工事事務所)
副委員長：吉田 憲司(富士開発(株))
委員：西部 雅英((株)ヨコタテック)
委員：天木 亨(興亜開発(株))
委員：笠間 大樹((株)フジヤマ)
委員：駒田 泰士(協和地研(株))
委員：土屋 靖司((株)富士和)
委員：岩部 健治(不二総合コンサルタント(株))
委員：堀岡 征矢((株)東洋地質調査)

当委員会は、協会運営の全体の総括を担当しています。主な活動としては、以下の通りです。

- イ)公正取引に関する法令遵守及び論理規定に関すること
 - ロ)新入会員の入会促進運動
 - ハ)地質調査の資格試験に関すること
 - ・地質調査技士等、資格検定試験の実施
 - ・地質調査技士受験対象者講習会の実施
 - ・地質調査技士登録更新講習会の実施
 - ・地質情報管理士資格検定試験
 - ・その他地質調査技士に関すること
 - ニ)四支部協議会の実施
 - ホ)会員相互の親睦会の実施
 - ヘ)その他協会運営に関すること
- 以下に主な委員会の活動報告を致します。

●第65回通常総会

令和7年5月9日 名古屋ガーデンパレス
出席者数：会員40社(40名) 賛助会員3社(3名)
表彰者4名 報道関係4名 事務局2名

●親睦ボーリング大会

令和7年5月23日 名古屋グランドボウル
参加者数：75名(16社)
優勝者：団体 (株)東洋地質調査
個人 打越 一摩

●第61回地質調査技士受験者対象講習会

令和7年6月27日 imy会議室
受講者数：71名
講師：折野 好高((株)東海環境エンジニア)
二階堂 学(大日本ダイヤコンサルタント(株))
大石 雅彦(中央開発(株))
棚橋 昌平(応用地質(株))

●第59回地質調査技士資格検定試験

令和7年7月12日 imy会議室
受験者数：133名
試験官：深井副理事長, 小島理事, 河原理事,
深谷監事

検定試験結果

部門	受験者	合格者
現場調査	28	15
現場技術・管理	91	25
地質情報管理士	14	6
合計	133	46



●令和7年度 コンプライアンス講習会

令和7年11月10日 名古屋ガーデンパレス
受講者数：207名
講師：中部地方整備局 適正業務管理官
兼定 弘明様
熊田法律事務所 弁護士 熊田 均様

●令和7年度 地質調査技士登録更新講習会

令和7年11月14日 imy会議室
受講者数：148名
講師：出口 裕二(東邦地水(株))
津坂 喜彦((株)アオイテック)
田中 史郎(富士開発(株))
近藤 勉(川崎地質(株))

●懇親ゴルフ大会

令和7年12月2日 山岡カントリークラブ
参加者数：10名
優勝者：吉田 憲司(富士開発(株))

●四支部協議会

令和7年12月22日 協会事務局
中部協会と県協会(愛知・岐阜・三重・静岡)との四支部協議会を年一回実施し、中部協会との連携を密に協会員の技術力、品格等の向上及び会員企業発展のため努力しています。

●新春賀詞交換会・麻雀大会

令和8年1月10日 麻雀「琥珀」
参加者数：24名(12社)
優勝者：法安 章二(ジオ・ラボ中部)

最後に委員会活動に対して、ご理解並びにご尽力とご協力をいただいた各委員及び会員各位に心から感謝申し上げます。



研修委員会報告

委員長 大久保 卓

令和7年度の研修委員会のメンバーは以下の10名で構成されています。

- 委員長：大久保 卓((株)大和地質)
- 副委員長：金住 健一(大日本ダイヤコンサルタント(株))
- 委員：都築 孝之(日本物理探査(株))
- 委員：澤田 茂((株)総合開発調査)
- 委員：鬼頭 剛(日特建設(株))
- 委員：小笠原朋弘((株)ティビー)
- 委員：伊藤 健二((株)日さく)
- 委員：中野 雄介((株)中野地質)
- 委員：大井 寿彦((株)東日)
- 委員：高橋 将也(村木鑿泉探査(株))

当委員会の本年度の活動内容は以下の通りです。

イ)協会の技術向上のための技術研究会・講習会の開催

ロ)技術講習会としての新春技術者懇談会の開催

ハ)女性技術者活躍推進委員会・座談会の開催

年6～7回の委員会を開催しています。

以下に、主な活動について報告します。

●令和7年度 女性技術者座談会の開催(第7回)

開催日時：令和7年6月13日(金)

場 所：ホテル名古屋ガーデンパレス

参加者数：21名

議 題：「女性が活躍できる環境とは」

尚、今年は技術職だけでなく、営業職や事務職にも声をかけ、活気あふれる会となりました。

●内閣府男女共同参画局の理工チャレンジ「夏のリコチャレイベント」の開催

開催日時：令和7年8月18日(月)

場 所：名古屋港湾会館

参加者数：40名(2部に分けて実施)

議 題：「小中高生を対象とし、天然石の万華鏡を作ろう～女性技術者と学ぶ、地質のお仕事～」

●新春技術者懇談会の開催(中部土質試験協同組合共催)

開催日時：令和8年1月23日(金)

場 所：ホテル名古屋ガーデンパレス

参加者数：講習会49名、懇親会46名

講 師：古谷 元先生

(富山県立大学工学部社会基盤工学科教授)

議 題：「令和6年能登半島地震による土砂移動について」

古谷先生の講演内容は、地震による斜面や地盤変状が構造物に与える影響について複数の事例や、奥能登豪雨災害による土砂移動の特徴等を紹介していただき、踏査や計測の重要性について説明をしていただきました。出席された会員の皆様には、たくさんの質疑があり大変盛り上がり充実したひと時を過ごすことができました。



写真-1 古谷先生による講習会の様子



写真-2 懇親会の様子

●その他

本年度は、現場見学会を中止とし、代わりに救急救命講習会を実施しました。令和7年12月15日(月)に、名古屋市消防局より講習(2名)を派遣していただき、基礎地盤コンサルタンツ(株)の会議室を借用し、2部制で30名の参加にて実施しました。

会場を貸していただいた基礎地盤コンサルタンツ(株)の支社長様はじめ社員の皆様にご心より感謝申し上げます。なお、女性技術者の集いについては「女性活躍推進ワーキング」活動報告に詳細を述べています。

最後になりますが、委員会活動に対してご尽力並びにご協力いただいた各委員、女性技術者WGのメンバー及び会員各位に心から感謝申し上げます。

常設委員会報告



女性活躍推進ワーキング活動報告

女性活動推進WG 岩崎 理代

1.ワーキングの構成

女性活躍推進ワーキンググループ(以下中部GEOラバース)は平成30年度に研修委員会のもとで新しく発足され、発足から7年を迎えた。今年度は、以下7名のメンバーを中心に活動を行ってきた。

リーダー◎岩崎 理代(大日本ダイヤコンサルタント(株))
 石原 聖子(中部土質試験協同組合)
 下山 友実(日本工営都市空間(株))
 藤代 祥子(日特建設(株))
 平江 喜子(応用地質(株))
 三好 千春(東邦地水(株))
 山澤 朋夏(東邦地水(株))

また、8月より
 梅本 奈美(応用地質(株))
 松野 由奈(サンコーコンサルタント(株))
 片野 有紗((株)中部ウエルボーリング社)

が加わり、新体制となった。

2.活動の概要

令和7年度の主な活動の内容は以下5点。

- ①女性技術者座談会の開催
- ②内閣府の取り組み(リコチャレ)夏の学校
- ③SNSでの情報発信
- ④女性技術者向けのメルマガ配信
- ⑤小牧工科高校での出前授業

①女性技術者座談会の開催

女性技術者同士のネットワーク構築や、働きやすい環境づくりに向けた問題抽出を目的として、女性技術者座談会の開催を計画した。詳細は3項。

②内閣府の取り組み(リコチャレ)への参加

内閣府男女共同参画局が行っている「リコチャレ」(女子学生が、理工系分野に興味・関心を持ち、将来の自分をしっかりイメージして進路選択“チャレンジ”することを応援するため、内閣府男女共同参画局が中心となって行っている取り組み)に賛同し「リコチャレ応援団体」に登録している。中部GEOラバースでは、理工系分野で活躍する女性からのメッセージ紹介のページに記事を投稿をしたり、夏のイベントを主催したりしている。

夏のイベントは令和7年度で3年目の参加となり、毎年異なったイベントを企画開催している。今年度は「天然石の万華鏡を作るう～女性技術者と学ぶ、地質のお仕事～」と題したイベントを開催した。詳細は4項。

③SNSでの情報発信

地質調査業知名度向上を目指した活動の一環として

より多くの若者や女性に業界のことを知ってもらうためにSNS(X及びInstagram)での定期的な情報発信を行っている。情報の内容としては、地盤・地質・土質等幅広く、専門的なことから誕生石や化石についての話題、現場近くのスポット情報など学生に興味を持ってもらえそうな内容まで幅広く行っている。今後はさらに更新内容を充実していき、世間の流行や興味に合わせてThreadsなど他の媒体での発信も検討していきたい。



図-1 Xロゴ(新)とQRコード

④女性技術者へ向けたメルマガ配信

本取り組みは、女性技術者座談会同様、会社や役職の垣根を越えて、横のつながりを形成することを目的に、4年前より始めた取り組みである。

メルマガの配信はWG発足後7年間で女性技術者座談会に参加していただいたことのある方を対象に配信し、身辺の女性技術者へメルマガ配信の登録を呼びかけるよう促している。

配信内容は、WGの活動紹介や座談会への参加お礼に加え、専用メールアドレスへのよろず相談受付のお知らせを書き添えた。

ワークライフバランスのとり方など、ご質問やWGへの参加希望など、お気軽にお寄せいただければと思う。

四半期に一度の配信を目指し、今後も引き続き配信を継続していく予定である。

⑤小牧工科高校での出前授業

今年度も社会人講話講師派遣として、愛知県立小牧工科高等学校より依頼いただき、環境科学科の高校二年生28名を対象に出前授業を行った。

令和5年度より継続して行っており、今年度で3年目となる。詳細は5項。

3.女性技術者座談会の開催

3-1女性技術者座談会の概要

2025年6月13日に第7回女性技術者座談会を名古屋ガーデンパレスにて開催した。

座談会の今年のテーマは、「地質調査業の魅力について」を大テーマに、この仕事に就いた理由、仕事を続ける理由はこの業界の魅力のアピールするには?などについて話し合った。

議題については要望により、今年度の新しい取り組みとして、技術職以外の女性も対象にしたことから、漠然としたテーマとなったが、経験年数が0年～33年に及ぶ、多様なキャリアパスを有する21名の方に参加いただき、例年通りワールドカフェ方式でお茶を楽しみながら、技術的なことから、技術を支える営業や事務職、他業界からの転職など様々な経歴を持った方々と前向きな意見交換ができた。



図-2 女性技術者座談会チラシ

3-2座談会での議論

会場での議論は女性技術者として働く上での困りごと、その解決策やより働きやすくなるための制度等について等、毎年意見交換を行ってきたが、協会各社で育児や介護において時間給やフレックスタイム制度を利用できるとしている。との意見が多くなってきた印象であった。



写真-1 座談会の様子
(模造紙に自由に意見を書き込んでいきます)

また、主に出た業界の魅力としては、自然の中で働ける楽しさがある。出張でいろいろな場所へ行ける。経験を

重ね、技術者として成長が実感できる。社会の役に立つ仕事ができる。などが挙げられました。

営業や事務職の方々からも、最初は何をやっているのピンとこないことが間々あったが、次第にやりがいを見出し、技術者を支えるべくCADを覚えたと言った意見も出ていた。

また、会のはじめにオブザーバーより3次元モデルについても意見交換を行ってほしいとの要望を受け、以下の意見を挙げた。

まず、3次元モデルに一瞬でもさわったことがあると答えた参加者は3割程度にのぼり、業務として扱っている参加者はそのうち2、3名にとどまった。

議論で出た意見としては、3次元モデルのイメージはとにかく難しそう、複雑そう。調査で作った3次元モデルがソフトなどの関係で工事や設計には使えないことが多いので、まだまだ整備が必要なのは。実際の現場に合わせて作り直すことが多いので、使用にあたって不便に感じる。3次元モデルで成果を出すと、役所からは見栄えが良いので覚えてみたい。などの意見がでた。

会の最後には昨年に引き続き恒例の懇親会を開催できた。最終的には、自然と全員が一つのテーブルに集まり、次回の再会や集まりの約束を交わし、会を締めくくった。

女性技術者座談会開催にご理解いただき、ご協力いただいた皆様、ならびに、座談会出席にご理解いただいた各社様にこの場を借りてお礼申し上げます。

4.リコチャレ夏の学校イベント開催

4-1イベント概要

中部Geoラバーズは8月18日に名古屋港湾会館にて、小中高生を対象に天然石で万華鏡作りを体験できるイベント「天然石の万華鏡を作ろう～女性技術者と学ぶ、地質のお仕事～」を開催した。

応募に際しては内閣府HPやX、協会から各社へメールにて周知していただいた。



図-3 募集チラシ

常設委員会報告



女性活躍推進ワーキング活動報告

女性活動推進WG 岩崎 理代

参加者は午前、午後それぞれ定員25名(50名)に対し、40名+付き添いの幼児5名の申し込みがあった。

イベントは去年盛況いただいたため、午前の部、午後の部に分かれて行った。

付き添いの幼児は参加者からの希望で、保護者付き添いのものと、同じプログラムに参加していただいた。

まず、座学を行い、

- ・地質ってなに?
- ・地質調査って?
- ・中部Geoラバーズの活動について
- ・岩石の成り立ち

という流れでワークシートを用いて進めていった。



写真-2 解説ボードを使って説明するメンバー

その後いよいよ万華鏡に入れる好きな天然石を選んでいき、石の観察を行った。

皆どの石を選ぼうか、様々な石を混ぜる子やこだわりの石を選び取る子など様々で、子どもたちは和気あいあいと皆で見せ合ったり、お気に入りの石を見つけたりしていた。



写真-3 様々な天然石に群がる参加者

万華鏡は、市販のキットを使用し、鏡から組み立てを行い、少々難しい作業もメンバーでフォローし、参加者自らの手で作り上げていた。

選び取った石の配分や分量等を色々変えて何度も万華鏡をのぞき込み、試行錯誤する姿はみな真剣だった。

万華鏡は、リボン、シールや色紙、ラインストーンなどで思い思いに飾りつけをし、各自持ち帰った。

アンケートでは、石が好きで参加したといった意見から、石にはあまり興味がなかったが、万華鏡を作ってみたかったので参加した結果、地質調査の仕事や石の種類に興味を持った。などの意見が得られた。

帰り際には、来年もまた参加したいと声をかけてくださるかたもあり、好評のうちにイベントは終了した。



写真-4 ジオラマ作り～皆真剣!!!!～

子供たちに地質調査業について知ってもらい、地質に興味を持ってもらうことができ、皆楽しい時間を過ごした。

中部Geoラバーズは今後も小中高生に向けて、地質調査業の魅力を発信していけたらと思う。

5.小牧工科高等学校への出前授業

今年度も昨年に引き続き、愛知県立小牧工科高等学校より依頼を受け、社会人講話講師派遣として出前授業を行った。

出前授業は環境科学科に所属する2年生、28名で、1時間50分(途中休憩時間含む)の時間をいただいた。

授業方式はグループワークとし1グループ4～5人、男女混成とした。

出前授業の内容は、例年に倣って地質調査業についてとその社会的役割、中部GEOラバーズの活動を説明した後、ミニ実験を行った。また、将来の進路選択に悩む学生が多いとのことから、業界で働く若手技術者のキャリアパスなどを紹介した。

ミニ実験ではメンバー自作の実験装置とワークシート

を用いて円弧すべりの実験と液状化の実験を行った。

円弧すべりの実験では、地すべりの起こる要因、仕組みを説明し、装置を使って実演した。

その後ワークシートでは、どのような対策を行うことで災害を防げるかをテーマに対策工の検討に取り組んだ。

対策工の検討では、現在採用されている工法も100年前には考えられなかったようなものも多くあるが、技術の発達や工法の開発でどんどんより良いものが日々生まれていると投げかけ、生徒たちには新工法の開発者になったつもりで取り組むよう説明し、現実的な意見も非現実的な意見もどんどん出しあい、互いの意見を尊重しとりまとめるよう促した。

これらの議論の中で、水抜きボーリングや抑え盛土、アンカー工など実際に使用されている工法が発案されたときはその対策工の写真を見せ、装置を用いて実験を繰り返し、実演した。

様々な意見が出た中、最近SDGsについて学んでいるとのことで、「すごく深くまで根が張る木や植物をたくさん植えたら?」「水を通しやすい層をスポンジみたいな吸水素材になるように変えられないかな?」「地下に貯水地?を作り、水抜き穴を作って発電したらどうかな?」など高校生らしい面白い発議と展開を見せたグループもあった。

授業の最後のアンケートでは、「自分たちが当たり前のように過ごしている学校の下がどうなっているかなって考えたことなかった!」「地質調査業って考えてみれば絶対必要な仕事だけど、知らなかったし、思いつかなかった。」「液状化の仕組みがわかった!」「高速道路でよく見るコンクリート(アンカー工)が何か分かった!」「将来家を買うときはハザードマップを確認して地盤のいいところを選びます!」「退屈せず講義を受けれた」などの意見を頂戴し、楽しかった!地質に興味を持ったなどと声をかけてくれた生徒もいた。



写真-5 ミニ実験の様子

受け身の授業にならないよう心掛け、実際に学生に体験してもらい、考える作業を共にし、フレッシュな意見を聞き、こちらも大変刺激になった一日となった。

学生たちが将来、職業選択の場面で、この講和を思い出し、一助となることができれば幸いです。



写真-6 グループ討論

6.今後の活動について

今年度は中部GEOラバーズの活動に賛同いただき、8月より新たなメンバーが増え、今までの活動の成果を実感した1年となった。

来年度も、年1回の女性技術者座談会を含む、業界の魅力、認知度向上のための様々な活動を計画している。よりよい企画を行うため、毎年恒例行事も、要望により適宜グレードアップできるよう、WG内で議論を重ねていきたい。

高校等への出前授業やコロナ禍前に行っていた大学への働きかけも、積極的に働きかけていく所存である。

また、女性技術者座談会でのアンケート結果から、現場見学会や講習会などの要望があるため、企画を進めていき、活動を通して、座談会やアンケートで得られた意見を随時協会への働きかけ、女性が働きやすい環境・制度を整備できるよう努めていきたい。

常設委員会報告



広報委員会報告

委員長 河原 弘明

令和7年度の広報委員会は、委員長・副委員長をはじめ、以下の10人のメンバーで構成されています。

- 委員長：河原 弘明(中央開発(株))
- 副委員長：佐藤永一郎((株)中部ウエルボーリング社)
- 委員：浅川 実(日本エルダルト(株))
- 委員：亀谷 祐幸(大和探査技術(株))
- 委員：川原 久幸((株)テイコク)
- 委員：坂本 健二(東海ジオテック(株))
- 委員：白川部竜也(松阪鑿泉(株))
- 委員：竹市 雅司((株)東京ソイルリサーチ)
- 委員：藤森 弘則((株)増田地質工業)
- 委員：堀内 律輝(復建調査設計(株))

本年度の広報委員会活動は、令和7年度通常総会で承認されました以下の7項目です。

- イ)発注者に対する広報活動
 - ロ)中部地方整備局との意見交換会
 - ハ)発注者側からの積算等の依頼に対する応答
 - ニ)全地連積算委員との連携
 - ホ)「地質と調査」等、全地連刊行物の配布先の検討及び配布
 - ヘ)改訂版全国標準積算資料の広報宣伝活動
 - ト)広報活動での「土と岩」配布
- 以下に、主な活動について報告します。

●発注者に対する広報活動

発注者に対する広報活動は、理事長、副理事長、委員及び理事会社のご協力を頂き、8班編成で7月上旬～8月下旬にかけて行いました。

一次官庁本局については、理事長、副理事長、広報委員長が訪問しました。

広報委員会が担当する愛知、岐阜、三重、静岡及び長野県南部に所在する一次官庁及び独立行政法人については、各班で事務所を訪問し、広報活動資料の説明・配布を行いました。

愛知県協会、岐阜県協会、三重県協会、静岡県協会は、各県及び市町村を担当しました。

本年度の配布物は、以下の通りです。

- ・理事長挨拶状
- ・協会員名簿
- ・機関誌「土と岩」73号
- ・防災協定の写し
- ・トータルコスト縮減に寄与する地質調査の発注促進を

「土と岩」は中部協会の機関誌として長年にわたり受け継がれてきました。

今回配布した協会誌73号は、特集として「地震災害

から命を守る」～発災前・発災直後・発災後～と題して、2024年1月1日に発生した能登半島地震について、(1)神奈川大学の落合努助教、(2)中部地方整備局防災室の舟橋優室長補佐、(3)東海国立大学機構名古屋大学減災連携研究センターの平山修久准教授から執筆いただきました。能登半島におけるTEC-FORCEの活動については、今回活動した経験を想定される南海トラフ等の大規模災害に役立てたいと記されています。ぜひご一読をお願い致します。

同号には、東海大学の高橋大介准教授から「沿岸潮位の変動から見た高潮」と題して特別寄稿を頂いております。

加えて、国土交通省中部地方整備局と行った、「令和6年度中部地区における地質調査業に関する意見交換会」の様子は報告しています。

地質調査の重要性について、各発注者の理解は、年々、高くなってきています。また、長年に亘る広報活動等の結果、中部協会の認知度も高くなっており、突然の訪問にも関わらず各発注者には快く対応して頂き、ここに、紙面をお借りして深く感謝申し上げます。

●中部地方整備局との意見交換会

国土交通省中部地方整備局との「令和7年度地質調査業に関する中部地方整備局との意見交換会」は、意見交換会の内容を発注等に活かしてもらえるように、今年度でもできるだけ早期に開催できるように取り組み、令和7年10月30日にKKRホテル名古屋にて開催し、整備局より貴重なご意見を賜りました。その様子は本誌でご報告していますので、是非ともご覧ください。

今後もますます(一社)中部地質調査業協会・地質調査業の更なる地位向上を目指し、発注者に対する広報活動や意見交換会等を実施してゆく所存です。重ねてご発注者及び協会員皆様のご協力をお願いします。



令和7年度 中部地方整備局との意見交換会



技術委員会報告

委員長 深谷 雄二

今年度も昨年度に引き続き、中部ミニフォーラムの企画・開催や学協会など行事への共催・協力を主な活動としてきました。

技術委員会のメンバーは、以下の9名です。

- 委員長：深谷 雄二(日本工営都市空間(株))
- 副委員長：松浦 好樹((株)ジーベック)
- 委員：今津 基洋(東海地質工学(株))
- 委員：大畑 文昭(昭和設計(株))
- 委員：川崎 直樹((株)キンキ地質センター)
- 委員：勝眞 浩一(南海カツマ(株))
- 委員：小西 純一(サンコーコンサルタント(株))
- 委員：土屋 国彦(土屋産業(株))
- 委員：広瀬 義純((株)アサノ大成基礎エンジニアリング)

主な技術委員会活動は、以下のとおりです。

- (1) 会員各社の技術向上を目的とした技術研究の促進
・「中部ミニフォーラム2025」企画・開催(R7.10.17)
- (2) 地盤工学会中部支部、日本応用地質学会中部支部などの諸行事への共催、事業協力
・「地盤調査ボーリング作業、物理探査見学会」の開催(R7.4.18)

なお、全地連主催の講演会開催支援については今年度の活動はありませんでしたが、昨年度に引き続き国土交通省中部技術事務所が実施する「R7年度基礎技術研修(R7.10.14, 15)」への講師・実習を担当しました。

■地盤調査ボーリング作業、物理探査見学会

地盤工学会中部支部主催の「地盤調査ボーリング作業、物理探査～室内土質試験見学会」では中部土質試験協同組合と作業分担して実施しております。

技術委員会では、ボーリングマシンを使用しての現場作業、原位置試験などの実作業や物理探査作業を見学する場を提供しています。また、ボーリング用ツールズについても各種展示しました。

参加者は61名で、地質調査会社、コンサルタント会社、建設会社、学生などで、協会員各社からの参加は30名でした。主催者からも人気がある見学会との評価をいただいております。



ボーリング作業見学会の状況

■中部ミニフォーラム2025

今年度は10月17日、ウインクあいちにて開催され、65名のご参加をいただきました。

例年同様、若手・中堅技術者の発表力の向上に注力し、発表編数は昨年度と同じ7編とし、「若手・中堅技術者の発表練習の場」という位置付けとしました。発表12分、質疑・意見交換8分の時間配分とし、活発な質疑応答・意見交換が行われました。

特別企画は、例年の講演形式から趣向を変え「技術委員が経験した地質調査における失敗例・工夫例」というテーマで、技術委員4名による発表を行いました。アンケート結果では中々の好評いただきました。

発表会終了後は、意見交換会&懇親会を開催し、懇親を深めることができました。

優秀論文発表者は、論文審査及び発表審査の結果、下記の2名に決定しました。

- ・「富士山東麓に分布するスコリアの工学的特性について」：藤原 聡(東邦地水(株))
- ・「特殊な地山条件に留意したトンネル設計のための地質調査事例」：三浦 倫裕(川崎地質(株))



中部ミニフォーラム2025 発表会場

■中部技術事務所「基礎技術研修」への講師派遣

一昨年度からの取り組みで、国土交通省の職員を対象とした地質・土質に関する基礎技術研修で、座学および簡易支持力測定(キャスポル)・簡易動的コーン貫入試験の現場実習とデータ整理、オートマチックラムサウンディング試験の見学を行いました。また、後半ではジオ・ラボ中部で地盤材料試験の実習を行いました。受講生から好評をいただいております。次年度も地質調査の広報活動を兼ねて、継続していく予定です。

関連する学協会の行事への共催・後援については下記に示すとおりです。

■地盤工学会中部支部

- ・第34回 調査・設計・施工技術報告会(R7.6.20)
- ・第37回 中部地盤工学シンポジウム(R7.8.4)

■日本応用地質学会中部支部

- ・令和7年度(2025)総会・講演会・意見交換会(R7.5.26)

常設委員会報告



防災委員会報告

委員長 大橋 大輔

令和7年度のメンバーは以下の8名です。

委員長：大橋 大輔((株)朝日土質設計コンサルタント)
副委員長：滝藤 泰臣(青葉工業(株))
委員：御宿 洋二((株)興栄コンサルタント)
委員：戎 剛史(国土防災技術(株))
委員：小川 晴彦(東海テクノス(株))
委員：岡野 直次((株)ランドテクト)
委員：山本 貢司(東洋地研(株))
委員：齋 秀之((株)東海建設コンサルタント)

本年度の委員会の活動内容は以下のとおりです。

1. 事業者リストの更新作業

中部地整との災害協定に基づき事業者リストの更新作業を行いました。今年度は、登録協会員59社、本店・支店・営業所を合わせて計97事業所が登録され、登録派遣人員数は581名、ボーリング台数117台となっています。

2. 南海トラフ対策戦略会議の構成員としての活動

令和7年5月22日、第16回戦略会議及び第9回中部ブロック南海トラフ地震対策推進連絡会(リモート会議)に出席しました。構成機関は、「中部圏地震防災基本戦略」に基づいて取り組みを進めるとともに、戦略会議や地震・津波対策アドバイザー会議による情報共有・意見交換や南海トラフ巨大地震を想定した訓練等を連携して進めています。

3. 三重四川連合総合水防演習に参加

令和7年5月25日、令和7年度三重四川連合総合水防演習に参加しました。大規模な水害に備え、水防工法の実演や防災機関による情報共有訓練・被災者救助訓練などの水防演習・防災訓練・防災機器の展示等が行われました。



写真-3.1 水防演習

4. 安全パトロールの実施

令和7年11月11日、三重県四日市市内にて、安全パトロールを実施しました。防災委員会のメンバー等7名が

参加し、現場内の安全対策を確認しました。今後ともパトロールの実施を通じて、協会員全員が安全安心な作業を行い、事故を起こさないように徹底していきたいと思います。



写真-4.1 安全パトロール

5. 「防災訓練(情報伝達)」の企画・実施

中部地整との災害協定を円滑に履行するために、毎年防災訓練をおこなっています。中部地方整備局管内で震度6強の地震が発生したことを想定して9月24日に実施しました。

訓練当日は協会事務局災害応急対策本部を設置し、5県にまたがる登録会員97事業所に対し、PCメールで情報収集を行いました。



写真-5.1 防災訓練

以上が活動報告です。

全国に災害が多発する中で、中部地整との災害協定を軸に、協会としての防災体制を構築してきました。

2024年は南海トラフ地震臨時情報が出されるなど、災害への備えの必要性が大きくなってきています。会員各社におかれましては、引き続き要請時への連絡派遣対応が円滑にできるよう社内防災体制の確立にいっそう努めていただきますようお願い申し上げます。



編集委員会報告

委員長 今井 良則

●今年度の活動内容

令和7年度の編集委員会は、下記の9名で運営してきました。

- 委員長：今井 良則(応用地質(株))
- 副委員長：服部 正実((株)アオイテック)
- 委員：吉岡 恭一(明治コンサルタント(株))
- 委員：小暮 充範((株)グランドリサーチ)
- 委員：奥 一歩((株)東建ジオテック)
- 委員：森崎 祐治(静岡コンサルタント(株))
- 委員：小田 秀昭((株)建設コンサルタントセンター)
- 委員：阿部 卓也((株)岐阜ソイルコンサルタント)
- 委員：谷口 昇(丸栄調査設計(株))

今年度の編集委員会は、以下の活動を行いました。

- 1.中部地質調査業協会の機関誌「土と岩」73号の発刊と配布先の検討・配布
- 2.「土と岩」74号の企画・制作
- 3.中部地質調査業協会のホームページの管理および更新・改良(ホームページワーキングを担当、ホームページワーキンググループの活動内容は別途掲載)。

●「土と岩」74号の企画・制作

今年度は昨年のような能登地震のような災害等もなく穏やかに年が明けました。昨年のような取り上げるべき社会問題や災害等も少なかったため、技術をテーマとして取り上げることとしました。取り上げる技術を何にするのかを編集委員会の中で議論した結果、「3次元地盤モデルの作成」を特集テーマとして企画していくこととしました。

●特集：3次元地盤モデルの作成

上記のように、今年度は3次元地盤モデルの作成を特集テーマとしてすすめることとしました。内容は「読者の役に立つ」、「読んで活用できる」を視点におき、会員企業から5社の方々に、これまでの実施事例を紹介していただくこととしました。また、「3次元地盤モデルの作成」に馴染みのない方々も多いのではないかという意見もあったため、3次元地盤モデルの作成についての基礎知識も専門企業(五大開発様)の方に紹介していただくこととしました。

上記の事例紹介は、実施事例を対象構造物等5つ(道路、橋梁、地すべり、斜面、複雑な地盤)に分類し事例を紹介していただくこととしております。

今後、こういった3次元地盤モデルは、技術進歩も進捗し、より活用しやすい技術へと進化してくものと思われます。また、活用の場も私たちの業界に限らず、様々な企業とのコラボレーションにより、より多くの方々が3次元地盤モデルに触れる機会も増えていくものと思われます。今後の技術発展や浸透状況を鑑み、今回の事例紹介を是非とも活用いただければと思います。

●特別寄稿について

本号の特別寄稿は、静岡大学名誉教授、静岡大学防災総合センター客員教授 小山真人様に「富士山の噴火対策はどこまで進んだか〜ハザードマップ・避難計画・降灰対策・事業継続計画の現状と課題〜」というテーマで、富士山噴火リスク及びその課題と対策について執筆いただきました。ボリュームは多いですが大変な力作となっておりますので、是非ともご一読願いたいと思います。

●中部地区の博物館・資料館の紹介について

「中部地区の博物館・資料館の紹介」は、本号は静岡県富士山世界遺産センター(静岡県富士宮市)を紹介します。執筆は博物館・学芸課教授の小林淳様に執筆していただきました。小林教授は火山学を専門として様々な研究をされ、博物館での展示イベントなども精力的に取り組んでおられます。博物館は最近の観光ブームもあり、来館者は非常に多くなっております。博物館屋上には展望室も備えられ、富士山に関する様々な知見とともに富士山の絶景を見ていただくことができます。執筆にも博物館での企画展示内容にも触れており大変に興味深い記事となっておりますので、是非ともご覧ください。

●今後の取組みについて

本誌の企画の際には、皆様方のご意見に真摯に耳を傾け、分かりやすく、読みやすく、面白い記事をお届けするよう努力しております。

また、表紙写真も編集委員会で写真を募集のうえ表紙に相応しい素晴らしい写真を掲載しております。

今後も、皆様方に役立つ、分かりやすい記事の掲載を続ける所存ですので、引き続き、よろしく願いいたします。

令和7年度のワーキングの構成

令和7年度のホームページワーキングは、以下のメンバーで活動を行ってきました。

令和7年度も、これまで同様、協会の一体感醸成、協会ホームページの認知度向上を目指した活動とし、連携強化の一環として、静岡支部からのメンバーの参加も継続しました(〳は参加状況)。各委員とも、多忙な中、ワーキングでの審議(対面審議5回、メール審議1回)、各種情報共有、各種連絡、担当部分の活動、突発事象への対応等、各種の活動を、連携して行いました。やむを得ず欠席となった場合でも、議事録、関係資料を共有し、全員参加で活動しました。

担当役員：深井副理事長<参加2回/実施6回>
今井編集委員長<4/6>

委員：宮尾 浩一(※1)：継続：<6/6>
津坂 喜彦(※2)：継続：<6/6>
黒田 了介(※3)：継続：<5/6>
佐藤 祥昭(※4)：継続：<5/6>
藤田 智広(※5)：継続：<2/6>
中山 雄太(※6)：継続：<4/6>

※1：応用地質(株) ※2：(株)アオイテック

※3：(株)グランドリサーチ ※4：川崎地質(株)

※5：基礎地盤コンサルタンツ(株) ※6：東邦地水(株)

令和7年度の活動概要

令和7年度のホームページワーキングは、基本的にすべて会議形式としましたが、ワーキング間に発生した緊急審議が必要な事項への対応は、メール審議としました。

今年度のワーキングも、各委員の意気込み表明に始まり、以降はこれまで同様、年度活動計画の議論、協会・会員企業の役員交代・移転等への対応、各支部活動のお知らせ、身近な地質スポット、歴史災害スポット等の追加、地質調査や協会活動にも関係深そうなトピック情報の収集・抜粋・掲示、ホームページ不具合の解消活動等を行ってきました。

このほか、スポット的な活動として、地質調査要領エッセンスの抽出・追加、他機関コンテンツへのリンク、リンク集を含む既存コンテンツのメンテナンスなどを行いました。昨年度に引き続き、HPに掲載している『土と岩』の追加(古いもの)、目次集の更新(古い号の記事、最新号の記事)も行いました。

また、SNS活動時に想定・懸念される事項等について、現時点での情報を基に議論し、上申しました。

以上のような活動を通じて、ホームページの改善、使い易さ向上と、参考情報の提供に努めてきました。

会員以外の方からの反応

今年度にも既存コンテンツをご覧になった一般の方(愛知県在住の学生の方と思われる)から、記事に関連したお問い合わせを事務局にいただきました。この方は

記事として取り上げたスポットが、どのような経緯で今の状態になったか等を調べようとおられたので、関連資料等、我々が把握している範囲で情報を提供しました。

今回のお問い合わせ及び昨年までのお問い合わせの状況もあわせると、協会のHPは会員の皆様のほかに、学生の方、企業の方、他学会の方、愛知県の方、岐阜県の方、東京の方、関西の方等、様々な方がご利用下さっているようです。

このような状況を踏まえワーキングメンバー一同、今後とも使いやすく、少しでも参考になる情報が得られるホームページを目指して、引き続き活動していきたいと考えております。

因みに、今回問い合わせをいただいたコンテンツは、“身近な地質スポット”でした。

身近な地質スポットの更新

以前、身近な地質スポットで取り上げた「おばれ岩」については、2025年5月24～25日の豪雨により大きく傾き、登山道の通行も危険と判断され、菟野町は中登山道を通行止め、全面通行禁止としている状況です。

このことを踏まえ、当該コンテンツの記事を更新し、現状について追加しました(下記写真は倒壊後)。元来支えあっていた岩同士が左側へ倒れるような形で大きく横に傾いています。菟野町HP画像に加筆。

(<https://www2.town.komono.mie.jp/www/contents/1748145559034/index.html>)



一口メモの追加

一口メモについては、今年度は、以下のものを追加・更新しました。

【防災に関するもの】

揺すり込み沈下、マイ・タイムライン、キキクル、流域治水、JMA-MOT、日本版改良藤田スケール

【時事その他に関するもの】

水循環白書、国土交通白書、防災白書、環境白書、こど

も環境白書

今後も折に触れて、追加・更新をまいります。

リンク先の追加

今年度は、主に以下のサイトをリンク先として追加しました。

【静岡県富士山世界遺産センター】

このセンターは、世界遺産を「保護し、保存し、整備し及び将来の世代へ伝えることを確保する」拠点施設です。展示は「育む山」「美しき山」「荒ぶる山」「聖なる山」「受け継ぐ山」などのテーマで構成されており、富士山の美しい姿を体験することができます

『土と岩』の追加、目次集の追加

協会誌『土と岩』については、最新版を追加しました。さらに、昨年度に引き続き、古い『土と岩』をHPに追加しました。今年度追加したものは、『土と岩』No.1～29です。またこれらの追加にあわせて、目次集を更新しました。必要に応じて、ご利用下さい。

地質調査に関する基本的な情報の充実

今年度も、「地質調査要領エッセンス」コンテンツの内、「橋梁・高架構造物基礎の地質調査」を、“もっと詳しく”部分に追加しました。

このコンテンツは、種々の対象物に対する地質調査のポイントや概要を知りたいときや、新しく入社された方の研修時などでご利用下さい。今後順次、資料をアップしていきます。

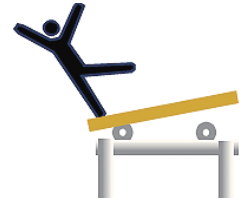
対象物・活用調査	ポイント	もっと詳しく
地質調査の目的と調査計画	🔍	工事中
橋梁・高架構造物基礎の地質調査	🔍	🔍

ヒヤリハット事例集の追加

今年度は、以下のヒヤリハット事例を追加し、会員専用のお知らせコーナーにアップしました。その内、“仮設

中の足場から転落”記事に、理解を助けるための“棒人間”(下図)が登場しました。今後、必要に応じて“棒人間”の増殖を図っていきます。少しでも安全意識向上の参考になれば幸いです。

- “クレーンブーム下げ忘れ”
- “モノレール伴走時に斜面から転落”
- “マンホールの蓋で指を挟みそうになった”
- “コアチューブ等を取り落として、足を負傷する”
- “斜面からの転落”
- “斜面上方からの落石”
- “不整地運搬車の荷崩れ”
- “仮設中の足場から転落”



HPの不具合を、いち早く把握する仕組みの検討

今年度も定期更新時期に、HPの不具合(修正漏れ、リンク切れ、参照箇所違い、更新漏れ)の総チェックを行いました。

例年この時期のチェックで、幾つかの不具合を発見しますが、今年は例年に比べてやや多い印象でした。把握できたものについては、削除等も含めて適切に更新しました。

今年度は、このことに関連して、“HPの不具合をいち早く把握”し、適宜、迅速に、HPの不具合を解消することを目的として、発見した不具合をHP上でお知らせいただける仕組み・窓口を検討し、HP上に設置しました。

HP閲覧時等に、不具合にお気づきの場合には、この窓口によりお知らせ下さい。

お知らせいただくとその情報は、HP運営関係者に送付されます。送付された関係者間で不具合を確認し、対応を検討します。この仕組みで、適切に不具合の解消を図っていきます。

引き続き、ご支援・ご協力を

令和8年度の活動につきましても、これまで同様、皆様からのご意見、ご要望等をできる限り活動に反映させる形で進めてまいります。引き続き、皆様のご支援・ご協力をお願い申し上げます。